

アナログのカラを破ろう!

人材不足を副業人材でカバー



福岡金属興業株式会社は昭和23年設立。現社長は20年前に縁あって東京から直方へやってきました。鉄スクラップ回収加工業は、日本経済を下支えする重要なリサイクル産業でありながら、裏方の仕事であるがゆえ、以前より人材確保が困難でした。本格的な人口減少時代、先代（故・中川一郎氏）の後を継ぎ、経営改革へ奮闘中——

デジタル技術も活用し、社会変化の対応に取り組む市内事業者を、大塚市長が訪問し話を伺いました。

○副業・兼業人材の活用は何を目的にされたのですか。

この業界は俗に言う3K（きつい・汚い・危険）。残念ながら若い人が「さあ、やろう!」という業界ではありません。先代が亡くなってこの10年、いろいろな方策で人材確保をしてきました。これまでもフルタイムでは働くことができない等、就業上のハンディキャップを持った方や、高齢者など、さまざまな方に就業の機会を提供してきました。

私自身は、縁あって東京から参りました。前職では、九州への出張もたびたび経験していたため、福岡市と北九州市の間にある直方の地の利もあると思っていました。ただ人材採用として考えると、一般の方が何も縁がないのに直方というまちに就業の場を移すということは考え難い。そこへ去年の12月に、取引銀行から副業・兼業人材のマッチング事業を紹介されました。人材確保ができるなら、どんな手段でも取り組んでみよう。です。それから、あえて目的をもって副業・兼業に取り組もうというよりは、地元の人脈もない中で会社を維持し、発展させていくために何が出来るかを考えていたところに、運良くこのような機会を頂戴したという経緯です。

○問題意識を常々持っていたからこそ、話があったときに反応できた、ということ

とでしようね。実際に、会社の中でこういった部分に人材が欲しいと思われたのですか。

解決すべき課題があつて、それに合った人材を見つけるのが理想です。ただ私の場合、正直に言つて、まずは人材を確保することが先でした。誰でもいいから来て欲しい、と。実際に募集してみると応募が20人もあり、驚きました。全員リモートで会って面接をしました。応募者には、私の仕事への価値観・考え方や、丁寧にお話をしました。ワークライフバランスなど、個人の価値観を可能な限り尊重し、仕事をコーディネートしています。リモートワークに適しているのは「作業性の強い仕事」と言われてはいますが、働く方のモチベーションが上がるよう、経営者が個人の大切にしている価値観に寄り添えるかどうかで、「クリエイティブの高い仕事」の依頼も実現可能だと思っています。

○まさに共感が大事ということですね。

市の副業人材マッチング事業補助金活用で採用した方はデータ分析を得意としていたので、既存の社内データを可能な限り提供しました。そうして分析して整理したひとつの例が、物流効率改善です。鉄鋼業界はトン当たり単価で運ぶため、時間当たりの効率という概念がありません。運転手の運行業務への取り組みと、

経営側から見た効率が必ずしもマッチしないところがありました。データに基づき、現場が理解できる形で整理してもらいました。ただ、全ての業務がデータ分析やリモートワークで実現可能というわけではなく、リアル（現場・現実）との使い分けは必要です。むしろ現場の感覚・経験は、データやリモートよりも重要視しています。経営者がリスクを承知の上で思い切ったデータ提供することで、データ分析のプロである外部副業者からの客観的視点を受け入れ、リアルと融合させていくことが肝心なところかなと思っています。



代表取締役 横溝淳弥さん

○実際に副業・兼業人材を活用するにあたって、大変なことはありませんか。

いかにして共感するかなと思います。既存の組織運営でも重要なことだと思いますが、特にこのリモートでの副業・兼業となると、特徴として、直接対面で仕

事をする必要があります。私は、未だ副業者とリアルでお会いしたことがないんです。リモートで何かを伝える時に、対面した場合と同じように伝わるかという点と難しい。伝え方や共感の仕方を工夫しなければいけないと思います。

○将来、新たな事業展開について検討していることなどはありますか。

弊社の100%子会社・FKECロジ株式会社で「ecoぴっと24」という九州初の無人資源回収システムを、県内3店舗展開しています。回収ボックスには重量計がついており、持ち込んだ資源物重量によってポイントが付与されます。これは弊社管理サイト上でデータ連動していることで、最終的には資源がどのくらい集まり、CO₂等の温室効果ガスの削減量がモニターやウェブ上で見られる仕組みにオープン化できれば、SDGsの取り組みとして市民の皆さまにも喜んでもらえるのではないかと考えています。

○リサイクルを推進するにあたって、民間で資源が循環するシステムがあり、持ち込む人のメリットがあれば、システムとして面白いですね。

行政側も民間の回収機能を使うことで、税金の使い方も最適化されることに繋がるのではないかと思います。回収率を上げるために、例えば、お子さんを保育園や幼稚園の送迎に行ったついでや、

コンビニ、集合住宅付近など、市民の生活行動圏内に集中出店していく。そうして、今まで市が回収していたものを部分的に軽減できたり、官民連携してリサイクルに取り組めたらいいな、と思っています。適正なリサイクルの枠組みの中で、環境先進都市・直方を実現していくことが、我々の使命だと思っています。

どう直方を盛り上げるか、というよりは、いかに直方の人材が営業マンとなつて「直方というブランドを売ること」が必要と話す横溝社長。全国に散った直方出身の仲間が、「故郷で面白いことをやっているな」「リモートでも働ける会社が増えているらしいぞ」と働く場の選択肢になつていくと良いと思うんですよ」と語りました。



福岡金属興業株式会社

昭和23年の創業以来、鉄スクラップの仕入・加工・販売を事業の中心に据え、現在は資源スクラップ全般の仕入・販売から、大手企業の産業廃棄物排出ゼロの取り組みにも事業領域を拡大。資源のリサイクルを通じて地域の発展にも貢献。



北九州市八幡西区に設置している「ecoぴっと24」

新聞・雑誌・段ボール・古布・アルミ缶・ペットボトル・携帯電話や小型家電を回収している